

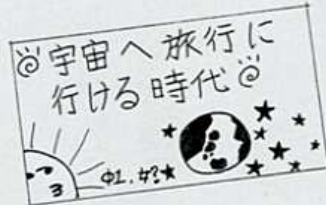
佐保会兵庫県支部だより

第 24 号

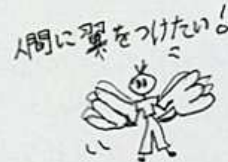
佐保会兵庫県支部事務局

神戸市中央区山本通り4-2-9
〒650-0003 TEL・FAX 078-221-3361

子供たちの思いを
たくさんわかって
あげられるような先生
になりたい。(小学校の)



クラブと勉強を
両立させて
健康になりたい



大人にならたら
ほぼさんたら
なりたい

看護師になろうと
なりたいからです。

世界は
みんな
仲良く
したい

もうすぐテニスの試合だ。
朝と昼と放課後の練習
忙しいけれど頑張りたい。

友達をたくさん
つくりたい
楽しい仲間が
ほしい

おまじないの
ほい。

おまじない
ちゃん
ほい

かた
すし
さし
し



みんな
仲良く
したい

未来へ

世界各国が平和で、争いごと
のないようにしたい。

サッカー選手に
なりた〜い!

世界中の人々と
仲よく会話が
できるよ
うに
なりたい

二十一世紀には火星に住
みたい



人と動物が平和に暮らせる
世の中になりたいです
私は将来獣医になりたいです

24時間寝たい。

サッカーせんい
なりたい

カッリンの
空と車

テーマ：“未来へはばたく子どもたち — いざ21世紀へ — ”

平成12年度 佐保会兵庫県支部総会

平成12年5月28日(日)
神戸ポートピアホテル

爽やかな5月最後の日曜日、支部総会はポートピアホテル和楽の間で開催されました。96歳の加藤咲子様をはじめ会員70余名が参加しました。

物故者のご冥福を祈り、吉江副支部長の開会のことばで始まりました。

浅野支部長は「総会の持ち方や会費の納入状況」にふれ、「奈良の地で深い縁に結ばれた温かいつながりを更に強めたい」と挨拶されました。

ついで、支部長を議長に①～⑥の議事はスムーズに進行しました。

- ①新役員承認—本部評議員の山川はる江様が退任し、光長紀美子様が新任されたこと
- ②平成11年度事業報告—(11Pへ)
- ③平成11年度会計報告—(10Pへ)
- ④平成11年度会計監査報告
- ⑤平成12年度事業計画—(11Pへ)
- ⑥平成12年度会計予算—(10Pへ)

記念品贈呈では、卒寿に前田タケコ様、卒後55年に宮崎市子様と谷澤郁子様のご出席があり、それぞれ力強いご挨拶を戴きました。

講演は身近な問題として拝聴し、会食では各テーブルごとに話がはずみ、お茶のころから

- ①本部報告 佐藤すなほ様
 - ②佐保短大報告 八木 静子様
 - ③大学婦人協会報告 鈴木 久子様
 - ④佐保婦人学級報告 寺田 翠様
 - ⑤「若草」報告 山崎 渺美様
 - ⑥「睦会」報告 昭和32年卒業生
 - ⑦第24回「支部だより」編集委員紹介
- の順でそれぞれの活動が報告されました。

最後に全員で懐かしい校歌を合唱し、松尾副支部長の閉会のことばで散会しました。

楽しい意義ある一日でした。



哀 悼

志方 匡子様	T13臨理	H10. 9. 17	没
兼田 孝代様	S 5 文	H11. 10. 27	没
松永加代子様	T15臨国	H11. 10. 30	没
二階堂 孝様	S12 保	H11. 11. 4	没
井筒 せつ様	S 2 家	H11. 12. 13	没
三浦 静様	S 4 文	H12. 3. 12	没
平出 美子様	S 4 臨地	H12. 4. 12	没
合志 辰子様	T15臨国	H12. 5. 3	没
奥田 納得様	S 6 文	H12. 5. 7	没

卒寿のお慶び

近藤 房子様 (S6文)
 諏訪 節子様 (S6家)
 桜井 静子様 (S6文)
 前田 タケコ様 (S6家)
 菊沢 道子様 (S6家)

平成12年度 新入会員

学部	氏名	住所	就職先
文国際	堀(渡辺)香子	灘区	
文人間	手塚 智美	灘区	
生生活	辰川理美子	灘区	ジャヴァグループ(株)
理数	川向美千子	北区	県立神戸高塚高
生生活	福永 靖子	西区	大日本印刷(株)
生人間	山田美由紀	尼崎市	日本ブレンセンター
生生活	宮地砂織理	西宮市	萬有製薬(株)
理情	濱村 翠	伊丹市	
生生活	櫻井 紀美	伊丹市	(株)伊藤園
理数	川島 淳美	宝塚市	ダイヤモンド情報システム
生生活	上場江梨子	宝塚市	日立情報システムズ
生人間	小原 紀子	宝塚市	
生人間	和田 亜弥	宝塚市	
理数	新谷佳菜子	明石市	松下システムテクノ(株)
理数	井上 裕恵	姫路市	播州信用金庫
理数	岸原利枝子	姫路市	
理物	鳴尾 有紀	姫路市	姫路市役所
生人間	菅原文代	姫路市	
生人間	鶴岡 舞	姫路市	賢明女子学院中・高
理物	岡本 智恵	豊岡市	近大付属豊岡高(非)
大学院			
人博前	山本 泉	東灘区	
人博前	小澤亜紀子	北区	(株)メデイカ出版
人博前	米田 和美	高砂市	ダイセル化学工業(株)

— 講 演 —

「遺産相続について」

弁護士 榊原恭子氏 (S23 文)



法律のお話というので、堅苦しく、難しい内容ではと覚悟していましたが、しかし、先生は弁護士としての豊富な経験から、いろいろな事例を挙げて下さり、相続問題という深刻な内容を、より身近なものとして、やさしく穏やかな語り口でお話しして下さいました。

要約しますと、まず、自分の死後の相続人の範囲を確認しておくこと。相続財産の分割方法は遺言執行と遺産分割協議の二つである。民法で定めた法定相続分とは、「これだけの割合の権利と義務がある」ということ。遺言の執行の際の遺留分の算出、遺産分割の基準になる。後の家族間の争いを避ける為にも、是非、遺言書を作っておくこと。家族間で争い等ないだろうとか、めんどろなどと考えず、文章化しておくこと。その際、法律用語の間違いを避けるためにも、一度、専門家に見てもらっておくこと。遺言書は最優先であるが、相続人には遺留分があること。日本の社会、人々の意識の変化、特に家族観の変化を考えると、あやふやな期待や口約束は、争いの元になる等、事例を挙げわかりやすく、説明して下さいました。

最後に、権利(遺産相続)だけを主張するのではなく、義務(親の扶養)を果たす人間を育てる教育(学校、社会、家庭)こそが、これから必要だと締めくくられました。

(文責 瀬 正子)

若草だより



若草の活動報告と予定

平成12年 4月20日 (火)	若草だより発行
5月28日 (日)	第8回若草定例会
6月5日 (月)	シャンソンと民族舞踊の会
10月25日 (水)	秋の文学散歩-芦屋川にそって-
平成13年 1月27日 (土)	若草新年会
2月17日 (土)	講演会「ピロリ菌とのおつき合い10年」

平成12年度若草運営委員

(東灘)	角野 芳子 (078-452-4733)
	松尾 薫 (078-851-2086)
	大庭 栄利 (078-842-5850)
(芦屋)	山崎 游美 (0797-32-5218)
	福井千佳子 (0797-22-5626)
	岡本 郁子 (0797-31-6860)

若草定例会より

支部総会終了後、第8回若草定例会が開かれました。報告事項に続き、和気あいあいと話し合いが進む中、様々な意見が活発に出され、時間を忘れる程でした。

まず若草の活動内容についてですが、①時には婦人学級と共催の形で今日の問題（青少年犯罪や教育問題）の講演会をしてはどうか②幼児を抱える世代や新入会員を呼び込む企画を ③若草だより等の印刷物をもっと魅力的に などいずれも参加増員を目指す案が多く出されました。

またこれまでの収益金の用途については ①さい帯血移植に取り組むNPO組織のボランティア活動への助成 ②国際交流に役立つなどの意見が出されましたがいずれも懸案事項となりました。

次に若草コンサート出演者の枠を佐保会会員関係者以外に広げてよいかとの問いが出されましたが、実行委員会の方で検討することになりました。この他幅広い意見をいつでもお待ちしておりますので若草運営委員までどうぞお寄せ下さい。



シャンソンと

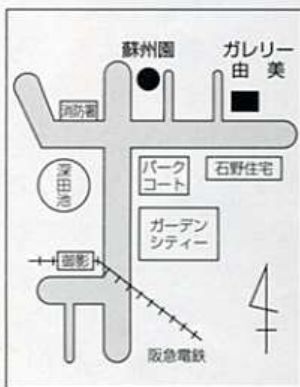
民族舞踊の会

溝端玲子 (S41文地)

針生さんの張りのある声が、ホールの外に響いてきた。「マイ・ウェイ」「ボン・ボヤージュ」「娘へ」など12曲、キーボードを巧みに操作しながら、曲間に人生の雑感などを折り込んで歌い上げられた。

毎年、コンクールにも挑戦なさる一方で、こうしたこじんまりしたふれあいも楽しまれるとか。子育てを終え、再び自分と向き合う時が増えた私に、今まで遠かったシャンソンの、その淡々とした詩が心にひびいた。次に赤い民族衣装をつけた角野さん、チロルやブル

ガリアのダンスをたてつづけに軽やかに踊られた。若いノ学生時代に極められたフォークダンスを8年前に再開されたとか。ワールドワイドな解説に認識を新たに。最後に皆で輪になってブリュターニユ地方のダンス。軽快な曲に乗って、そのユーモラスな振りを楽しんでるうちに、心も体も揉みほぐされたのを実感する。翌日の程よい筋肉痛が爽快でした。



睦会だより

卒寿を迎えて

前田タケコ

(S6家)

「学問に男女の差はない。女高師を目指して頑張り」との父の激励を受け無事入学。卒業後は島根県を振り出しに平穏な教師生活を続けた。昭和十五年に神戸市に転出。同二十一年の神戸大空襲により家財すべてを失い、半年後に主人急逝、私は残された四人の子供と舅とともに三木へ転出。勤務校の一隅に居をかまえた。先輩の佐保会員の方をはじめ、地域の方々の絶大なご援助を頂いた。報恩の道は生徒指導に最善を尽くすべきと考え、無欠勤で努力を惜しまなかった。その間家庭科研究会副会長等々の役職も体験、県高校教育調査委員並びに起草委員に任命され、その報告の一節に「男生徒にも必須に家庭一般を」と答申したが、三十数年を経て最近これが実現したことは感無量

である。高校退職後兵庫短大へ。全国で初めて設置された勤労学生コースの指導を担当。二十年間の在職中幸いにも産業教育百年記念式典に招かれ、天皇陛下ご臨席のもと文部大臣賞を受賞した。退職後は要請に応じ各地各所への講師活動を続け百回を超えた。更に念願の食生活関連の次記書籍を自費出版した。①昭和を生きる②野菜たちのつばやき③食べものとのふれあい④元気で長生きは食事から⑤卒寿を迎えてその歩いた道。今後も心身の健全な発達には広義の食生活が最も重要課題であることを訴えてゆきたい。

昨年の睦会から

平成十一年度の睦会を十一月七日(日)十一時三十分から三宮の「楽珍」で持ちました。

最高齢、九十五歳の加藤咲子様から睦会出席二回目の吉江順子様まで出席五十名。六十歳以上の会員の親睦会であるため、交通の便と座席の座り心地の良いことを第一条件にして会場を探しました。阪急三宮西口から徒歩で三分ほど、新装の和室で掘りごたつ型のラク・チンなどところを決めた時には、ひ

とまずほっとしました。

当日は、さわやかな申し分のない日和で、出足もよく係一同、再び胸をなでおろしました。係の一人が用意した折り紙の「亀」のお箸置きを傍らに、なごやかな会食後、各グループ毎に、なつかしい日本の歌をカラオケで歌い、出た歌にまつわることクイズをして楽しみました。おしまいに近藤房子様、八木静子様の「千曲川旅情の歌」の朗詠も出て、盛り上がりしました。全員が何かの形で参加するようにと企画したのですが、とても楽しかったと後で電話をいただいたり、知らない歌があったよと言われたり、率直なリアクションが得られるのも同窓の会の嬉しいところ。ぜひお伝えしたいことや、次の係の紹介などに、たっぷり時間がとれたのは、お店のオーナーの好意でした。

係一同、この会をとっても楽しみにしていらした郷美美枝様を偲びながら、いつまでもこの会に出席できる幸せを願って締めました。

大山明美(S31)

睦会平成十二年度当番

昭和32年卒業生

若草新年会へのお誘い

とき 平成13年1月27日(土)
正午～午後2時30分
ところ SOSHUEN(蘇州園)
阪急御影駅より北へ徒歩5分
☎(078)851-3182
～お食事はイタリアンのコースです
会費 5000円
(申込は1月20日迄に運営委員へ)

※右頁地図参照

ピロリ菌講演会と茶話会のご案内

今、話題のピロリ菌について、支部だより9頁に寄稿して頂きました長田久美子氏に、実例を交えて更に詳しく伺います。その後、アンティークの香り漂うサロン「ギャラリー由美」にてお茶のひとときを…
とき 平成13年2月17日(土)午後1時～
ところ ガラリー由美(S42卒 本郷良子様方)
☎(078)821-9637
会費 1000円
(申し込みは2月10日までに東灘運営委員へ)

※右頁地図参照

21世紀を目前にして

乾 登美子 (S36文社)

この世紀末は我々世代の想像をはるかに超える速度で変貌を遂げています。ここ数年劇的に起きた社会現象といえはパソコンと携帯電話の普及です。六歳の孫が事もなげにパソコンを操作してゲームを楽しむ、P.T.Aの会合では書記がノートパソコンで記録を取り、家裁の調停の場に携帯電話に入っているメールの記録を証拠として提示する当事者も現れています。IT革命により次々登場してくるベンチャービジネスの若き経営者達が語る事業内容など私の理解を超えています。凄まじい勢いで情報による産業が育っているのです。我々が子を育てた時代とは社会的な環境は一変しました。では本質的に昔も今もそして未来にも変わらず大切なことは何でしょう。親に愛された記憶が無い子に非行少年が多いという事を神戸で起きた殺人事件(酒鬼薔薇少年)の弁護士団長がおっしゃってますが、かの少年は親に愛されなかつた自分を「透明な存在」と文学的に表現したのです。愛しさえすれば良いのかというとそれだけで済まないのが子育ての難しい所です。同じ親が生き、

同じ様に育てたつもりでも長ずるに従って個々の違いは歴然としてきます。「梅檀は双葉より芳し」とか「親は無くては子は育つ」とか子供に関する諺はどれも真実を示しています。核家族の中で子供の社会性は育ちに不向き、熱中しているテレビゲームはバーチャルな世界です。それが原因なのか、追い討ちをかけているのか最近の子供達はコミュニケーションをとることが苦手です。良い学校に行き、良い会社に入れば良かった時代は残りつつあります。フリーターが150万人を超えたという現実は何を語っているのでしょうか。不況のせいだけではなさそうです。親が子の手本になれない時代になっているのです。ぶっちゃけた話、私は今21世紀を目前にして茫然と立ち尽くす気分でおります。とにかく子が八歳になるまでは可愛がること。そしてなるべく早い内に将来何がしたいのかということを見つける手助けをしてやること。自分の好きなことが仕事になることこそ幸せだと思います。そんな事位しか今の私には考えられないのです。

(家事調停委員)

今こそ出番のとき

加藤 澄子 (S31年文幼)

私は八歳の時、父が戦死し、母子家庭で育ちました。先ず、祖母と五人の子供を必死で守る母の姿が思い出されます。今に比べ物質的に恵まれていませんでしたが、家族団らんのある和やかな家庭がサツと脳裡に浮かびます。家庭では、絶対的な親の権力があり、善悪のけじめが教えられ、子どもの年令に応じて弟妹の子守りや風呂焚き、掃除などの手伝いや仕事を与えられ、家族の一員としての責任もすっかり教え込まれていたことを思い出します。

今、幼稚園の園長として若いママ達の子育てを見ると、自分が考えて行動せず、みんな一緒に大好きです。その実、他人への迷惑など我関せず、自分の子だけが良ければそれでよい、自分の責任は棚に上げ、権利を主張し、被害者意識ばかり強いように感じられます。子どもは親の後ろ姿を見て育ちますから、当然子どもも同じような態度や行動をとり、我慢することやしないので友達の間はギクシャクした関係となり、その結果ゲームを楽しむように平気で残忍ないじめや犯罪を起こすことになります。

私の園に、国際結婚をして日本にきているマレーシア人のお母さんがいて、片言で子育ての悩みをぶつけてきます。マレーシアでは家族や親戚、地域みんなで子どもを育てるのに、日本は隣近所には壁ばかりで冷たく、子どもが熱を出した時などとても不安だと涙を浮かべ訴えます。「日本のお母さん、パパ出張してる方がいい、子どもと好きな物を外食すると言っているけど、これも変だと思っ」：全く彼女の言う通りです。私達が育った頃の、あの隣近所の温かいつながりは一体どこに消えてしまったのでしょうか。人は一人ぼっちでは生きられません。支え合って皆のお陰で生きていけるのです。一人ひとりの積極的な発言や行動から関わりができ、絆は結ばれ、共生を実感し合えるようになるのです。学歴や地位や、貧富の差や年令には全く関係ありません。私達は赤ちゃんの無心の笑顔にふれた時思わず共に微笑み、心が洗われるような清らかな気持ちになります。ほっとした安堵の中に生きる元気を貰うようなよこびを感じます。でも、我が身を思うと、さて自分の存在が一体どれほど他人に良い影響を与えられるのか、とても不安な思いが致しますが、

「二十一世紀に翔く子どもたち」のために、今こそ大いに老人力を發揮して、積極的に自分の出番を求め、力いっぱい生きたいものだと思います。

(霞ヶ丘幼稚園 園長)

こどもは地域社会で

大田 奈緒美 (S37理化)

「トライやる・ウィーク」の取り組みが始まって三年になります。今年から勤めている青少年科学館が「トライやる」を受け入れてるので、私も担当者の一人として協力しています。

生徒がする仕事は、来館者への案内の補助、プラネタリウムの投影前にする注意などのアナウンス、展示物の点検や補修の手伝い、展示室の清掃など色々あり、コンパニオンをはじめ多くの館員がこどもの活動に協力しています。投影前にアナウンスでは、これ以上の緊張はないという状態でマイクの前に立っています。お願いの短い文を数人で少しずつ分けて放送するだけです。分かりやすい話し方でもありませんが、アナウンスが終わったときは、館内から温かい拍手がいつせいに起こります。「トライやる」が多くの人たちに

理解されてきたためでしょう。学校で敬遠される掃除にも、ここでは汗を流して真剣に取り組んでいます。

「トライやる」を実施することは平成十年の新春の新聞紙上で初めて報じられました。この突然の発表に、教師からは「勉強が遅れる」「部活動の力が落ちる」など非協力的な意見も出ました。保護者も

青少年問題の根本的な解決にはならないと批判的でした。地域の団体は保護者の反対が予想されるこの事業は実施できないものと考えていました。しかし、日が経つにつれ計画を具体的にしなければならなくなりました。受け入れ先を探して学年総務と文字通り走り回りました。初めは「教育は学校と親がするもの。地域で何ができませんか。」と云われていたのが、話を進めるうちに、次第に今の子どもや親の置かれている厳しい状況が理解されるようになりました。「二十一世紀を担う大事なこどもです。ね。」のことが出てきて、受け入れに同意していただいた時は感激いたしました。さらに、嬉しかったことは、お年寄りから顔見知りとなった生徒がこぼをかけてくれたという情報が伝えられたときです。

地域の教育力が低下したと云われていますが、「地域のこどもは地域社会の中で健全に育てよう」との気風が今も残っていることを感じました。

*トライやる・ウィーク

中二がする一週間の体験学習

(前神戸市立有馬中学校長)

一 高校から

森口 房子 (S43理数)

私の隣に座っている外国人講師のカレンは「この高校は最高!」と言う。彼女はオーストラリアで小学校の教師をしていたが家庭崩壊などで、羨ができておらず失望して治安のいい日本にやってきた。

彼女の言う通り、私の勤める高校では授業は静かに進み(時々、寝ている生徒はいるが)生徒指導も余り要らない。大方の生徒達は部活に汗を流し、文化祭や体育大会に燃え、三年生になると、やら進学をめざして全力を注ぐ。

しかし近年、不登校の生徒は確実に増えてきた。入学して一学期を越すのが難所である。これまで経験した不登校生を大きく分けると四つのタイプがあるように思う。「他に行きたい高校があったのに偏差値で決められた」「親に不満が

あったり身体的劣等感から前へ進めない」「能力以上ががんばろうとして行きづまる」「学習への意欲がなく友人もできず無気力」最後の場が一番やっかいで結局退学してしまう。

こんな中で教育現場は大きな変革期を迎えている。

一つは二〇〇二年から実施される学校完全五日制への対応である。総時間数の減少に伴い、選択制が多くなるざるを得ない。

二つ目は急激な生徒減である。兵庫県における中学校卒業生数は平成九年度六一、三〇〇人から平成二〇年度には四八、七〇〇人へと減少する。神戸市においても、神戸商業高校と赤塚山高校が廃止され、六甲アイランド高校が誕生したが、さらに統廃合は進められる。

三つ目は神戸市においては特に震災も重なった財政難である。

とはいえ、各校とも魅力ある学校作りを積極的に取り組み、本校では、国際社会に通用する人間育成をめざして国際科設置をかけた。この夏初めて独自のプログラムで十五人の生徒がオーストラリア短期留学に出發する。二十一世紀の学校は確実に変わろうとしている。

(神戸市立葺合高校教諭)

啐啄同時^{そつたく}

針生 祐子 (S51理物)

日本の子ども達がおかしくなりつつあるのは、何も子どものせいではありません。真つ新な赤ん坊が自ら悪くなるわけがありません。子どもを取り巻く大人が変わったからです。特に母親が(父親も変わりましたが、より影響を与える立場から言えば、まず母親)。そして詰まるところ母親さえしつかりしていれば、少なくとも子どもはおかしくはならない。昔からよく言われた「お袋」でなくなりました。民主主義のお陰かどうか、子どもに対してはまず自分というものが先に出て来て子どもの言うことにゆっくり耳を傾けず、また知識が多いのの良いことに自分の価値観(社会の価値観に左右されている)を無意識に押し付けてしまっています。学校ではさらに顕著に現れているのでは……。自分の意志を旨く伝えられない子どもはそれに耐えるしかありません。長年の鬱積した思いは、いずれ爆発するのが必定。問題を起こす子供はこの世に自分の良い所も悪い所もひっくるめて認めてもらえていて、という実感を持つて人(それが母親であり、そのことが最大の母親の役割)がないのでは。そんな子供は愛されているという実感も心のよりどころ(居場所)も無いので

はないでしようか。

問題を起こした子どものことを聞く度に思います。この子だけが悪いのではないと……。何故お母さんがせつかく生んだかけがえのない我が子を、暖かい目ですっぽり包めなかつたのか(とはいえず、母親自身もどうすることが良いことなのかわからなかつただけなのですが)と残念で致し方ありません。まずは自分の口を閉じ、ゆとりのある大きな心の耳で子供の言うことをしつかり受け止め真剣に対処する。これだけでどれだけ事態が改善されることでしょうか。

「啐啄同時」という言葉があります。雛は卵からかえる時、卵の中の雛の鳴き声(啐)を聞いた親鳥が卵の殻をつつく(啄)ことによつてかえります。しかし雛が鳴く前につついたり、鳴いているのに放つておいたり、又違う所をつついたら、雛は怪我をしたり死んだりします。人間関係全般に言えることですが、「啐啄同時」は特に子育てにおいてのキーポイントのようになっています。

子どもは親の鏡。ストレートに反応してくれる唯一有り難い存在であり、一生関係を断てない存在であります。このことの意義を特に問題が起きた時こそチャンスと思ひ深く考えたいものです。
「お母さん……」
「なんて素敵ないびきでしょう。」

二十世紀前半の教育

魚崎 茂子 (S10理)

私が生まれたのは大正の初め、二十世紀の初期、日本の国は軍国主義の真只中でした。天皇は現人神(あらひとがみ)であり、国民はすべて天皇のため国のために命を捧げるものと教えられ、又教えられて来ました。忠君愛国、滅私奉公、国民皆兵で、「男女七歳にして席を同じうせず」と云う時代でした。

旧制中学校(男子校)では配属将校が来て軍事訓練を行い、男子二十才になれば兵役の義務がありました。又男子の中には軍人になり、これが陸軍士官学校、海軍兵学校へ希望する人も多かつたようです。旧制高等女学校は良妻賢母を養成して、課外に薙刀を課している学校もあり、奈良女高師も同様でした。

やがて満州事変、日中戦争、次に日米戦争が始まり、学童は早くから地方に、集団疎開させられていました。日本が負け始めてからだん／＼物資がなくなつて配給となり、特に食料に困つて校庭、公園など空地はすべて耕され、さつま芋が植えられました。収穫の時は蔓まで食料に、不足の時は野草まで食料にしました。これらの世話に生徒が授業をやめて奉仕させられました。又上級生は人員不足の軍需工場へ動員されましたが、

ここで爆死した生徒も沢山いました。この近くでは深江の新明和工業で、戦時中は川西航空機と云う飛行機会社でした。

大学生は学業半ばで戦地に狩り出され、神宮球場での雨の壮行式は悲壮なものでした。

そのうち本土空襲も激しくなり、私達は焼夷弾の下を逃げ廻つて、命はないものと思つておりました。

やがて戦争も終り、私達は明日からの教育の目標を失つて泣きました。アメリカの占領下、民主主義自由主義の国となり、天皇は人間宣言をされました。男女共学が実施されたのはよかつたのですが、修身、作法がなくなり、此の頃ははき違えた自由、放縦になつて、知的に走りすぎて徳育、体育がおろすになつていくように思います。私事で申し訳ありませんが、私の方は主人が戦争で還らぬ人になりましたので、私の実母が子供の面倒を見てくれて私が仕事に出られませんでした。子供は皆それぞれ好きな事があり、その方に進むことが出来ました。子供にはその素質に合ったことをさせるのが一番かと思ひます。現在孫・曾孫とも五人おります。



東灘の科学者

ピロリ菌とのおつきあい10年

長田 久美子 (S39理生)

ヘリコバクターピロリ(ピロリ菌)という学名を持つこのバクテリアが、最近世間を騒がせるようになった。この菌は、胃炎、胃・十二指腸潰瘍さらには胃癌などの起因菌ではないかと考えられている。この菌は15年程前に発見されたもので、病原細菌としては新参者である。

ピロリ菌の発見は復活祭の休暇がきっかけであった。オーストラリアの病理学者と内科の研修医が、胃疾患の患者から得た胃の組織を培地上に放置していた。一週間の休み明けに見てみると培地に細菌が生育していた。強酸の胃という環境に当時菌などいないと考えられていたから、普通ならこの菌は外から混入したものと考えると、この菌は、彼等は、この菌を根気よく培養しつづけた。また彼等は、自らこの菌を飲み、それによって胃炎の起こることを確認し、この菌を新しい細菌として発表した。科学には偶然のきっかけが発見につながるが多い。私が、大学院生のころ、実験した後はすぐに片付けずに残しておくよう忠告

を受けたことを思いだす。実験が失敗した場合や結果が予想どおりでなかった場合、残しておいた物を手がかりにその原因がたどれるし、また新しい発見につながるかもしれないからである。

私のピロリ菌との出会いは、兵庫医科大学の大学院生がピロリ菌に興味を持ったのがきっかけであった。今から約10年前は、多くの消化器内科の学者は、胃や十二指腸潰瘍の原因が細菌による感染で起こるなどとは思っても見なかったところである。この院生が日本では初めてヒトの胃からピロリ菌を分離した。それがきっかけで本格的にこの菌とおつきあいすることになった。

日本では、当初ピロリ菌と胃関連の病気の関係を本気になって研究する学者は少なかったが、外国での研究が盛んになり、またWHO(世界保健機構)が胃癌の危険因子であると決めてから多くの消化器内科の学者がこの菌に注目し、研究するようになった。現在では、胃や十二指腸潰瘍の患者は殆どピロリ菌に感染し、抗生剤で除菌す

ると治癒するという事実が判ってきている。しかし、50才以上の日本人の多くはピロリ菌に感染しており、感染しているからといってすべての人がこの様な病気になるわけではない。また、胃癌との関連も明確ではない。

医者ではない私は、胃という特殊な環境に生育するピロリ菌に生物としての興味をもち続け、したたかに生きていくこの菌がもつ特殊な生存戦略を明らかにするべく研究を続けている。現在までピロリ菌は、ヒト以外の生物に寄生している例は見つかっていない。太古からヒトの胃に住みついたと思われる。最近明らかにされたこの菌の全遺伝子構造によると、この菌は他の生物からどん欲に遺伝子を取り込み、再編成し、胃という過酷な環境条件に適応すべく進化してきたことがうかがえる。

じつは私の胃にもこの菌がいるが、それほど悪玉菌ではないピロリ菌を敵対視することなくうまくつきあっていると思っている。

(兵庫医科大学、細菌学教室)

2月17日

若草講演決定



だんじり

(表紙写真)

一九九八年の明石海峡大橋の開通記念に、神戸と淡路の両側から出ただんじりが橋の中央で出会った場面をご存じでしょうか。

神戸市に四二基あるだんじりのうち三〇基が東灘区のだんじりで、人口あたりの台数のはかの有名な岸和田を上まわっています。

これは、京都祇園祭の山鉦を模した物で、江戸時代に伝わり、漁師・酒造業のだんな衆が金を出し合い購入したのが始まりといわれています。

一時さびれていましたが昭和五〇年代に入り、子供の頃のだんじりブームを知る世代に、自分の子供にも祭りの雰囲気や味あわせたいという機運が高まってだんじりが復活してきました。

若衆・年寄り・中堅層・主婦子供・地域住民によって成り立つだんじりは、地域のコミュニケーションを図る上で非常に大きな役割を果たしています。撮影・時枝俊夫氏

佐保婦人学級

平成12年度
佐保婦人学級
運営委員

大久保勝美 078-591-2493	大橋 節子 078-792-1440
寺田 翠 078-911-5364	射延 端枝 0794-84-1998
田中 幸恵 0795-42-3821	

平成12年度 第18回佐保婦人学級今後の予定

月	日	内 容	会 場	時 間	講 師
平成12	11. 8 (水)	バスツアー「紅葉の山陽路」三宮 8:00・JR明石駅 8:50出発		8000円程度	閑谷学校・日生・ドイツの森
平成13	1. 24 (水)	着付け教室「帯の結び方」	神戸市勤労会館	13:00~15:00	坂戸 洋子氏
	2. 21 (水)	美術鑑賞「大和王権と銅鏡」	神戸市立博物館	13:00~15:00	松林 宏典氏
	3. 14 (水)	「食生活と健康」 閉講	神戸市勤労会館	13:00~15:00	浅野 晶子氏

「佐保婦人学級」の報告

大橋 節子

健康で生き甲斐のある生活を送るために佐保会員のみなならず、一般の方からの参加も呼びかけお互いの親睦を深めながら学習を重ね、これを社会への貢献に役立てるといふ趣旨の下に佐保婦人学級が発足して今年十八年目になります。昨年度は一、生活に豊かさ潤いの工夫をしよう 二、最近の急速な社会の変化に伴う問題を考えよう を柱にそれぞれ専門の方をお招きして十回開講しました。

一、では俳画、書道、ポプリ匂い袋作りの作品の仕上げを楽しみました。一般の方からも「素晴らしい仲間に入れてもらって嬉しい」という声が届いています。秋には短歌を学び、続いて紅葉の「大山崎山荘美術館」の絵画を鑑賞し、芸術の秋、文学の秋を語り合いました。

二、では①食生活と健康の問題を取り上げ食生活が身体の影響にとどまらず心にも影響を与えている実例を知りました。また、②公の場で自分の意見を明確に述べること、話し言葉の磨き方を著名な専門家富田信子氏（佐保会名古屋支部）を招き具体的な実践を通して学びました。ユーモア溢れる話のなかに大切な点が述べられ約六十名の参加者から大好評でした。

平成11年度会計報告並びに平成12年度会計予算

収入の部			支出の部			
費 目	平成11年度決算	平成12年度予算	費 目	平成11年度決算	平成12年度予算	
前年度繰越	1,639,785	1,627,318	本部会費	679,000	900,000	
会 費	1,928,000	2,100,000	総会補助費	131,481	150,000	
内 訳	本部会費	679,000	通信印刷費	284,685	170,000	
	支部会費	1,249,000	交通費	28,850	60,000	
預金利息	368	300	事業費	名簿印刷費	230,000	220,000
本部より補助	69,360	56,000		名簿送料	1,840	170,000
寄 付	2,340	0		支部だより印刷費	200,000	200,000
合 計	3,639,853	3,783,618		陸会補助	30,000	30,000
資産内訳 (H12. 3. 31現在)			若草補助	30,000	30,000	
定額郵便貯金	1,250,000		佐保婦人学級補助	30,000	30,000	
郵便貯金	28,567		リーダー会経費	58,013	65,000	
為替貯金	318,635		「最寄り会」補助	101,400	105,000	
現 金	30,116		慶 弔 費	86,783	80,000	
計	1,627,318		事 務 費	120,483	130,000	
(別途友愛貯金)			予 備 費	0	5,000	
定額郵便貯金	891,000		小 計	2,012,535	2,345,000	
郵便貯金	6,859		次年度繰越	1,627,318	1,438,618	
現 在 高	897,859		合 計	3,639,853	3,783,618	
名簿印刷用積立金	230,000					

③ボランティア活動についてサポ
ートステーション灘を震災後立ち
上げた笹原順子氏に話を聞き、活
動の現実や疑問を議論しました。
ボランティア活動の観客から主体
として参加していく課程でリーダ
ーシップを発揮されたパワーがと

ても感動的でした。参加者から元
気をもらいましたという声があが
っていました。
十二年度もさらに内容を充実さ
せ、より親睦を深める場にした
と考えています。

平成12年度 支部役員

役名	氏名	卒業年学部	住所
支部長	浅野 晶子	S 23 家	中央区
副支部長	吉江 順子	S 35 文社	宝塚市
	松尾 薫 (若 草)	S 47 理 化	東灘区
事務局	大橋 節子	S 41 文 英	須磨区
	瀬川 順子	S 41 文 英	中央区
	射延 瑞枝	S 42 家 被	三木市
	藤井 勢子	S 48 家 食	中央区
会計監査	内匠 慶子	S 18 保	明石市
	藤岡 利子	S 38 家 被	尼崎市
本部理事	佐藤すなほ	S 19 家	尼崎市
	浅野 晶子	S 23 家	中央区
本部評議員	大久保勝美	S 31 文 国	北 区
	光長紀美子	S 34 理 動	芦屋市
	吉江 順子	S 35 文 社	宝塚市
	寺田 翠	S 37 文 幼	明石市
佐保短大理事	八木 静子	S 9 文	須磨区
	浅野 晶子	S 23 家	中央区
大学婦人協会役員	鈴木 久子	S 37 家 食	尼崎市

事務局便り

平成11年度事業報告

・第7回「若草」

・第17回佐保婦人学級

・5月23日 神戸ポートピアホテルで支部総会及び第7

回「若草」定例会開催

・8月26日 地区リーダー会

・10月24日 第3回「佐保会若草

コンサート」開催

・11月1日 第23号「支部だより」

発行(芦屋市担当)

・11月7日 「睦会」

・平成12年1月8日 新年会

平成12年度事業計画

・第8回「若草」

・第18回佐保婦人学級

・5月28日 神戸ポートピアホテルで支部総会及び第8

回「若草」定例会開催

・8月31日 地区リーダー会

・11月1日 兵庫県支部名簿発行

・11月1日 第24号「支部だより」

発行(東灘区担当)

・11月12日 「睦会」於「楽珍」

・平成13年1月13日 新年会

・西暦二千年記念誌発行

平成12年度 地区リーダー&最寄り会報告

(H12. 8. 20現在)

会員数	地区名	氏名	年次	最寄り会報告	会員数	地区名	氏名	年次	最寄り会報告
74	東灘区	松尾 薫	S 47 理 化	H12. 1 開催12名参加 次回未定	46	明石市	内匠 慶子	S 18 保	H12. 11 開催予定
38	灘 区	小蒲 恵子	S 49 理 物	「支部だより」編集の準備を兼ねて考慮中	54	加古川市	田中 洋子	S 44 家 食	H12. 11 開催予定
31	中央区	右田 俊子	S 52 理 物	H11. 11. 27	26	高砂市	田中 塩谷	S 34 家 食	H. 12 秋「三木道の駅」 で開催予定
7	兵庫区	田中加代子	S 47 文 教	六甲荘にて開催		三木市	杉浦 征子	S 40 理 化	
18	長田区	赤松 和子	S 52 文 教		140	加東郡	村田 好子	S 39 家 食	H. 12. 7. 15 ホテル・サン ガーデン(姫路)で開催 12名参加
48	北区	森田 絹子	S 29 理 数	H12. 4. 16 しあわせ村にて 昼食会・その後詩の朗読		西脇市			
45	須磨区	岡本 悦子	S 37 家 被	H12. 8. 27 ジョイプラザ 「高倉」にて開催	赤穂市	塚本富貴子	S 33 家 住		
63	垂水区	三輪 孝子	S 49 理 化	H12. 2. 26 ドマーニ神戸 にて開催 11名参加	龍野市				鎌谷 直子
46	西区	竹田喜代子	S 22 臨 数		11	但馬地区	米田 純子	S 40 理 動	未定
48	尼崎市	都筑久美子	S 37 家 被	H12. 10 月か11月 開催予定		三田市	大塚 温子	S 63 文 英	H12. 11 開催予定 (人数が集まらず検討が 必要)
92	西宮市	古山美智子	S 40 理 数	H11. 3 大阪で会食遊覧見学 12年度ハーバークルーズ	7	氷上郡	足立 瑞穂	S 42 家 食	未定
42	芦屋市	永吉 和子	S 34 理 化	H12. 10 開催予定					
32	伊丹市	北川 清子	S 40 家 食	H13. 3 開催予定	13	淡路地区	由井 弥生	S 42 家 被	未定
70	宝塚市	春田 君子	S 26 家						
47	川西市	光長紀美子	S 34 理 動	H12. 11 第2日曜日 開催予定					
	川辺郡	塚口 郁子	S 35 家 住	H12. 11 末 開催予定					
		都築 映子	S 37 家 食	H11. 12 開催20名出席					
		野村 晴恵	S 42 理 化	H13 春開催予定					
		佐藤 慶子	S 43 文 英						
		川口登美子	S 39 家 食						
		石原 範子	S 47 理 物						

東 灘 か ら

保久良登山!

毎朝六時半、六甲山中腹／保久良山（海拔百八九米）の方からラジオ体操の音楽が流れてきます。

保久良登山会、六月一日現在会員数三百七十名余り。その内、日に二百二十名位が登り、その七、八割が早朝登山です。詰め所の壁には登山記録表が貼ってあり、登る励みとなつています。最高が一万四千七百六十六回、四十年余り登り続けたこととなります。（脱帽）

平地で生活していると、自分が海の街神戸に住んでいることすら忘れがち、たまには山に登って見渡すのもなかなかいいものです。つづら折りの山道の木々の合間から神戸の街並みを右に左に眺めながら一歩一歩ふみしめて登って行く。身近な山として地域の人達に親しまれ、心肺機能・足腰の強化のみならず地域の人達の交流にも一役かっています。

倚松庵



JR住吉駅から住吉川に沿って南へ徒歩十二分、昔懐かしい日本家屋の倚松庵があります。

谷崎潤一郎が足掛け七年を暮らし、小説「細雪」を書いた家として知られており、そのたたずまい・間取りは「細雪」に描かれた家族の生活を彷彿とさせます。

「玄関を入ると奥まで通った長い廊下。北に台所や風呂、南に居間。」昭和初期の典型的なこの住宅は、いつまでも留まっていたい安らぎを私達に与えてくれます。

谷崎の著書や文献を閲覧することも出来ます。

平成二年に元の位置から北へ百五十メートルのこの地に移築保存されました。

開館時間 午前十時より

開館日 土・日曜日（除年末年始）

入場無料

☎〇七八一八四二一〇七三〇

神戸市立小磯記念美術館

JR住吉駅から六甲ライナーに乗り七分。アイランド北口駅西すぐの所に小磯記念美術館があります。

神戸に生まれ、神戸で制作を続けてきた洋画家小磯良平を記念する美術館で、未発表作品など二五〇〇点を収蔵しています。

中庭に移築されたアトリエでは制作の雰囲気味わう事ができ、また、ハイビジョンギャラリーでは、110インチの大画面で小磯良平の作品・画業を見ることが出来ます。

開館時間 午前十時より

開館日 月曜を除く毎日（臨時変更あり）

入館料 二百円

☎〇七八一八五七一五八八〇



S.S 編集後記

皆様、今回の支部だよりはいかがだったでしょうか。

昨今の社会情勢から止むに止まれぬ思いでこのテーマ「子育て・教育問題」に取り組んでみました。教育問題は古今東西、永遠のテーマだと思えます。又、この問題は、社会のありようを一番、反映しているのではないのでしょうか。私達佐保会員は、少なからず親として教育者として、また社会の一員として子供たちにかかわっておりま。この2000年という節目の年、改めて今一度子どもの置かれている状況、この社会を考えてみるべきではないでしょうか。そして来る21世紀、子供達が思いのたけはばたける社会となりますようお願いを込めて、この冊子をお届けしたいと思います。

最後となりましたが、各頁にお忙しい中寄稿して下さいました方々に感謝申し上げます。表紙は子供たちの寄せ書きで応援してもらいました。

東灘地区編集委員

金丸 寿子 内山美智子 庄司 幸子
 瀬 正子 松尾 薫 小蒲 恵子
 久保伊希子 針生 祐子 大庭 栄利